

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

技術科

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観 点	1 学期			2 学期			3 学期
	学 年	課題分析	具体的な改善策	学 年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○授業中は発言も多く、理解しようと努力をすることができる。 ▲テスト前の繰り返し学習が不足し、知識が定着していない。	繰り返し学習させ やすい課題を作成 し、取り組ませ る。取組も評価に 含めていく。	1 年	○技能として身に付けたものを互いに共有し、学びを強化している。 ▲定期考査で覚えた知識を普段の授業で活用できない。	知識を活用させるために、覚えさせることよりも使える知識として身に付けさせるよう働きかける。	知識や技能の定着については思考判断に必要なものを中心としていく。調べてわかるものについてはどのように生かすのかの視点でも考えさせる。
	2 年	○作業には意欲的に取り組む。 ▲テスト前の繰り返し学習が不足し、知識が定着していない。		2 年	○プログラミングの授業で作業を繰り返すことで知識を定着させることができた。 ▲テスト前の繰り返し学習が足りなく、知識が定着しづらい。		知識や技能の定着については思考判断に必要なものを中心としていく。調べてわかるものについては詰め込みすぎないようにする。
	3 年	○時間を意識し、作業を進めることができる。 ▲テスト前の繰り返し学習が不足し、知識の定着が甘い。		3 年	○知識を定着させ、それを扱うことができるようになった。 ▲分からない部分をすぐに質問してしまう。		知識技能については自分たちで必要なものを選択し学べるような工夫ができた。実生活につながる知識や技能の習得のため、内容を精査していきたい。
思考・判断・表現	1 年	▲発言は多いが他人の意見から自分で考えを深めることが苦手である。 ▲考えを言語化する活動に慣れていない。	答えを導くために必要な方法や考える活動を繰り返し行い、それをルーティン化させることで考えの深め方を定着させる。	1 年	○設定された時間内に終わるように、自分の能力を考え調整することができる。 ▲工具を使用する時に、間違った使い方をしていてやりづらいと感じても、よりよい使い方に工夫する力が弱い。	話し合いや、発表活動をルーティーン化をする。考えを深めるための発問を工夫する。教員ではなく、友人や検索など自分で知識を活用させる下地を作る。	知識・技能を元にして、考えることに慣れていない学年傾向にある。また、問いに対して正答できないことが多いので追加の質問やより深めるための工夫が必要である。
	2 年	▲じっくりと考え、適切な答えを自分の言葉にして表現することが苦手である。		2 年	○よりよいサイトにするために、レイアウトや見せ方を工夫をすることができている。 ▲新しいことを試す場面では自分で考えるよりも先に質問をしてしまう。		考えることに対して慣れてきているが、問いに対して正答できなかったり、浅い記述もあるので、深めるために工夫が必要である。
	3 年	○考える力はある、発想力もある。 ▲知識を組み合わせることで考察することは苦手である。		3 年	○学んだ知識を具体化して考えることができる。 ▲発想力はあるが、内容が表面的で自分で掘り下げて深めることが苦手である。		学んだことをどのように生かしていくかを自分で掘り下げて考えを深めさせるために、授業内で働きかけていく。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○苦手なものでも頑張っって自分のものにしようと努力をすることができる。	毎時の振り返りのフィードバックを行う。毎授業の中で学習を生活にどう役立てるかについて考えさせる。	1 年	○分からない部分をそのままにせず、粘り強く取り組むことができた。 ▲忘れ物が多く、授業進行に支障をきたすことがあった。	題材の目標を明確にすることで、最終ゴールを意識させて意欲的に取り組ませる。また、個別に進められる教材を作る。	題材をとおして学んで欲しいことを提示したことで、題材終了時に学んだことの振り返りをするに慣れてきた。この活動をルーティーン化させていきたい。
	2 年	○粘り強く取り組んだり、苦手な部分を調整する力がある。 ▲活動には意欲的だが、楽しい活動で終わってしまい、深い学びにつながらないことがある。		2 年	○プログラミング学習で、積極的に作品の改善に取り組むことができた。 ▲意欲の個人差が大きい。		題材をとおして学んで欲しいことを提示したことで、題材終了時に学んだことの振り返りをするが定着してきた。学びを深めるためにどのタイミングでねらいを達成するかの声掛けをしていくを図っていきたい。
	3 年	○時間内に仕上げようと調整する力がある。 ▲2週間に1度しかない授業への取り組み方に課題がみられる。		3 年	○個別学習でも時間内に目標まで進めることができ、遅れても調整をすることができた。 ▲もっと良くしようという取組に課題がみられる。		題材をとおして学んで欲しいことを提示したことで、題材終了時に学んだことの振り返りをする活動がルーティーン化できた。学びを深めるためにどのタイミングでねらいを達成するかの声掛けをしていくを図っていきたい。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・ 毎回の授業での目標、振り返りにタブレットPCを活用する。 ・ ICT機器を活用し、他者参照をしながら自分の学びを深めてさせる。 ・ 学んだことを八丈島の課題にどのように生かすか考えさせる。		他者参照や自分で学びの目標を設定させる中で同じ目標を設定したものの同士でコミュニケーションが生まれた。	・ 題材でやること、目指す達成目標を提示し、毎授業意識をさせる。 ・ 他者参照や情報共有にfig jamやGooglechatを使い始めた。 ・ 進捗管理を共有することで進行が同等の生徒同士の交流を増やす。		他者参照と進捗管理がコミュニケーションを育てているかはまだわからないが、教員のフォローはしやすくなった。	・ 「生成AIを活用したオリジナルサイト」など自走できるようなものにしていくことができた。来年度はさらにカリキュラムを精査し、より深い学びにつながる授業を展開していきたい。他者参照についてもfig jamをさらに活用していきたい。